

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成26年10月30日(2014.10.30)

【公開番号】特開2012-107243(P2012-107243A)

【公開日】平成24年6月7日(2012.6.7)

【年通号数】公開・登録公報2012-022

【出願番号】特願2011-256260(P2011-256260)

【国際特許分類】

C 08 L	77/00	(2006.01)
C 08 K	3/04	(2006.01)
C 08 K	5/00	(2006.01)
B 32 B	27/34	(2006.01)
B 32 B	1/08	(2006.01)
B 32 B	27/18	(2006.01)
C 09 K	3/16	(2006.01)

【F I】

C 08 L	77/00	
C 08 K	3/04	
C 08 K	5/00	
B 32 B	27/34	
B 32 B	1/08	B
B 32 B	27/18	D
C 09 K	3/16	1 0 1 B

【誤訳訂正書】

【提出日】平成26年9月10日(2014.9.10)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

静電気の蓄積に最も曝される層が少なくとも一種のポリアミドと、このポリアミドを帯電防止にするのに十分な量の、組成物の全体量に対するカーボンブラックの重量比が16～30%であるカーボンブラックとを含む帯電防止ポリアミド組成物をベースにしたものから成る単層または多層のチューブおよび/またはパイプにおいて、

上記帯電防止ポリアミド組成物が62重量%の固有粘度が1.65であるポリアミド12と4重量%の可塑剤と、12重量%のショアD強度が42で、融点が147のポリエーテルブロックアミド型の熱可塑性エラストマーとから成り、

上記カーボンブラックが、ASTM D 3037-89で測定したBET比表面積が20～100m²/gで且つASTM D 2414-90で測定したDBP吸収能が125～250ml/100gであるものの中から選択されるカーボンブラックであることを特徴とする単層または多層のチューブおよび/またはパイプ。

【請求項2】

組成物の全体量に対するカーボンブラックの重量比が17.5～23%である請求項1に記載の単層または多層のチューブおよび/またはパイプ。

【請求項3】

下記(1)～(10)の中から選択される少なくとも一つの添加物をさらに含む請求項1

または 2 に記載の単層または多層のチューブおよび / またはパイプ :

- (1) 可塑剤
- (2) 衝撃吸収材
- (3) 磷酸、亜磷酸またはヒドロ亜磷酸またはこれらのエステルまたは塩あるいはこれらの混合物
- (4) 着色剤
- (5) カーボンブラック以外の顔料
- (6) 染料
- (7) 酸化防止剤
- (8) 耐UV安定化剤
- (9) 連鎖制限剤
- (10) 補強材

【請求項 4】

可塑剤がベンゼンスルホンアミド、ヒドロキシ安息香酸エステル、ラクタム、テトラヒドロフルフリルアルコールのエステルまたはエーテル、クエン酸のエステルおよびヒドロキシマロン酸のエステルの中から選択される請求項 3 に記載の単層または多層のチューブおよび / またはパイプ。

【請求項 5】

可塑剤が *n* - ブチル - ベンゼンスルホンアミド (BBSA) である請求項 4 に記載の単層または多層のチューブおよび / またはパイプ。

【請求項 6】

組成物の全体量に対する可塑剤の重量比が 30 % 以下である請求項 3 ~ 5 のいずれか一項に記載の単層または多層のチューブおよび / またはパイプ。

【請求項 7】

押出成形で成形された請求項 1 ~ 6 のいずれか一項に記載の単層または多層のチューブおよび / またはパイプ。

【請求項 8】

帯電防止にするのに十分な量の、カーボンブラックの組成物の全体量に対する重量比が 16 ~ 30 % であるカーボンブラックとを含む帯電防止ポリアミド組成物の使用において、

上記帯電防止ポリアミド組成物が 62 重量 % の固有粘度が 1.65 であるポリアミド 12 と、4 重量 % の可塑剤と、12 重量 % のショア D 強度が 42 で、融点が 147 のポリエーテルブロックアミド型の熱可塑性エラストマーから成り、

上記カーボンブラックが、ASTM D 3037 - 89 で測定した BET 比表面積が 20 ~ 100 m² / g で且つ ASTM D 2414 - 90 で測定した DBP 吸收能が 125 ~ 250 ml / 100 g であるものの中から選択されるカーボンブラックであることを特徴とする使用。

【請求項 9】

組成物の全体量に対するカーボンブラックの重量比が 17.5 ~ 23 % である請求項 8 に記載の使用。

【請求項 10】

下記 (1) ~ (10) の中から選択される少なくとも一つの添加物をさらに含む請求項 8 または 9 に記載の使用 :

- (1) 可塑剤
- (2) 衝撃吸収材
- (3) 磷酸、亜磷酸またはヒドロ亜磷酸またはこれらのエステルまたは塩あるいはこれらの混合物
- (4) 着色剤
- (5) カーボンブラック以外の顔料
- (6) 染料

- (7) 酸化防止剤
- (8) 耐UV安定化剤
- (9) 連鎖制限剤
- (10) 補強材

【請求項 11】

可塑剤がベンゼンスルホンアミド、ヒドロキシ安息香酸エステル、ラクタム、テトラヒドロフルフリルアルコールのエステルまたはエーテル、クエン酸のエステルおよびヒドロキシマロン酸のエステルの中から選択される請求項10に記載の使用。

【請求項 12】

可塑剤がn-ブチル-ベンゼンスルホンアミド(BBSA)である請求項11に記載の使用。

【請求項 13】

組成物の全体量に対する可塑剤の重量比が30%以下である請求項10~12のいずれか一項に記載の使用。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0035

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0035】

【表2】

実施例のポリアミド組成物	流れ指數 (g/10分)	表面抵抗 (Ω)	多軸耐衝撃性	チューブへの衝撃
			吸収された全エネルギー(J)	破断した数/10
1(対照)	>1.2	>1.0 ¹³	≥60 強韌	0C/10
2(比較例)	2~4	1.0 ² ~1.0 ⁴	≤10 脆い	≥5C/10
3(本発明)	6~8	1.0 ² ~1.0 ⁴	≥50 強韌	≤1C/10